

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871300152		
法人名	医療法人 慶尚会 恵康病院		
事業所名	グループホーム テレサ		
所在地	四国中央市土居町蕪崎 1 6 7 番地 (電話) 0896-74-7677		
管理者	千葉 多佳恵		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 7 月 26 日	評価確定日	平成 19 年 9 月 20 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.8 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 5 日事業所記入)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護 1	3 名		要介護 2 5 名
要介護 3	6 名		要介護 4 1 名
要介護 5	0 名		要支援 2 0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山と田園地帯囲まれ、緑豊かでのどかな環境にある。職員は利用者の尊厳を大切にしながらケアに専念している。食事は楽しみ喜びの時間で、色彩良く抜群の味付けは好評を得ている。優しい言葉かけが食欲を増進させる。散歩で近隣の人たちと挨拶を交わし接点が生まれる。地域の一員として暮らし続けるための柔軟な支援を日々積み上げている。全職員が仲良く何でも相談でき話し合える働きやすい自慢の職場である。一人ひとりの要望に叶った介護を実践するために申し送りや連絡を密に行なっている。目配り・気配り・心配りのある対応の成果が穏やかな表情、安堵に満ちた笑顔あふれるホームを築いている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成している。地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念に変更し、より具体的に全職員で練り上げ、『笑』一字で体現し理念の柱としている。利用者の笑顔満載のホーム便りの発行が実現し、家族のもとに届けられている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

自己評価は管理者と職員で話し合い、取り組んでいる。一つひとつの評価項目のねらいや活用方法を全職員がより一層学習し、自己評価を行うことが望まれる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

地域の方々との交流の機会への働きかけを考えたり、ホームへの理解を深めるための説明をしたり、行事計画の報告をするなどサービスの向上に活かせる会議を3月に実施し、出席者からは適切な助言をいただいている。地域に開かれたサービスとして質の確保を図るための会議を2か月に1回程度は開催することを望む。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

家族から率直な意見や気持ちを伝えてもらうためには、家族の立場に立った要望の受け入れが大切である。利用者の健康状態や人間関係を気にかけている家族が安心できるよう、ホームからは定期的な連絡・報告やホーム便りの送付を行い、より濃密な信頼関係を築き上げることを期待する。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

自治会に加入している。回覧板で町内の行事など知ることができ参加も可能である。日頃は近くまで散歩に出かけ挨拶を交わすことで利用者は元気を蘇らせている。近所の方から作物・花・稲穂などもらい感謝している。ホームの行事にも参加してもらうなどを計画中で、地域とのつながりを大切にしながら暮らししていけるよう配慮している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームテレサ

(ユニット名)

1F

記入者(管理者)

氏名

千葉多佳恵

評価完了日

19年6月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスにグループホームが位置づけられた意味を話し合い、地域との関係が強化できるようテレサの目指す暮らしを考えた。 (外部評価) テレサの目指す暮らしを『笑』一字で体現し、地域とのかかわりを大切に、常日頃から多様な機会を捉えて取り組んでいけるよう全職員が努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフは、いつも理念を意識してケアにあたっている。カンファレンスなどでも時々確認している。 (外部評価) 利用者が安心して生活できるように、カンファレンスやケアプラン作成時には理念が反映できるよう確認し、具体的なケアに活かしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 開設時に説明会、見学会などを実施したが、継続的な取り組みには至っていない。		前年度よりホーム便りを発行しているが、それを充実させていくことと、家族の会を立ち上げたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などに出かけたときは、近隣の方と挨拶をしたり、近くの畑の方から野菜を頂いたり以前より関係作りは出来てきたが、まだ充分とはいえない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 今年度より、地域の活動には、積極的に参加するように努めている。 (外部評価) 自治会に加入している。近隣の方から花や野菜をもらうこともある。散歩時のあいさつや声かけで利用者は元気をもらっている。いただいた稲穂や藁を飾りに使ったり、一緒に編んだりしている。		一斉清掃や、消毒、自治会の総会に参加した。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 民生委員の見学などの受け入れや、単発的な見学者、認知症に対する相談は、受け付けているが、ホームの機能を還元していく取り組みには至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価について勉強会を実施し、意義や目的などを確認しているが、日々の忙しさのため、外部評価の結果を十分に分析できず、活かしかけていないように思う。 (外部評価) 改善計画シートを作成し、理念の具体化やホーム便りの発行が実現したことは評価できる。自己評価は管理者・職員間で話し合い、取り組んでいる。	※	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するための学習会などの取り組みを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議により、地域とのかかわりの足がかりはできたが、まだサービスの向上につながるような話し合いはできていない。 (外部評価) 運営推進会議で自己評価の内容説明、外部評価の結果公表、理念や行事の報告を行ない、参加者から助言や意見をもらっている。	※	地域に開かれたサービスとして質の確保を図るため、地域との交流促進のための話し合いを2か月に1回程度は行うことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 具体的な取り組みはできていない。市町村との連携は今後の課題である。 (外部評価) 利用者の課題解決のために、実態を市担当者に良く知ってもらい共有できるよう働きかけることもある。地域密着型サービスとして連携強化に積極的に取り組んでいくことが今後の課題と考えている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については、書籍や講演会などに参加し、理解を深めるよう努めているが、対象となる方への働きかけはまだ不十分。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフはカンファレンスや日常の会話のなかで、虐待は絶対にしてはならないと認識しており、介護にあたっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居申し込み時と入居の時に説明をしている。不明なところは、いつでも対応できるようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の希望や不満を聞くよう努め、できるだけそれを反映させるよう努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 個々のケースに応じ、あるときは担当スタッフが、必要なときは、管理者が報告相談を行っている。 (外部評価) プライバシーの守られたホーム便りには日頃の生活ぶりや行事報告、家族へのお願い等を掲載し、定期的に家族へ送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時に苦情等何でも話してもらえるように説明している。ご家族のかたからの苦情は申し送りノートに記載しスタッフ全員が周知するように努めている。 (外部評価) 月1回利用料の支払いで訪問した時には、家族の立場に立って意見を聞くよう留意している。利用者の体調や人間関係など家族が安心できるよう全職員で対応し共有している。		家族会設立を考えている
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のコミュニケーションとカンファレンスで運営や体制に対する意見を聞いている。みんなが良いと思う方向に向かっていけるようにと考えている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応をするためには、人数が足りず今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者の理解を得られるように働きかけたい。 (外部評価) 利用者、家族との信頼関係を築くためにも顔なじみの職員が対応することが重要であると管理者は考えており、やむを得ない離職を補うための職員確保や利用者への配慮を含めた対応に力を注いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会にはできるだけ参加できるようにしている。またカンファレンスで研修会の報告を行い得た情報を共有できるようにしている。 (外部評価) 職員は研修意欲が高くより専門的に学習したいと願っているが、限られた職員体制の中で実務に支障を来さない方法で研修機会を確保するための工夫が求められている。	※	職員の質の確保・向上に向けた育成のため具体的な研修方針を計画し実施することを期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 県のグループホーム連絡協議会に加入しているが、相互研修などの取り組みには至っていない。 (外部評価) 東予のグループホーム協議会の勉強会に参加し、質の向上を目指している。職員は他のホームを見学したり、交流する機会を希望している。	※	日々のサービスや職員育成に役立つよう、相互の研修や事例検討会等の機会を設けることが求められる。同業者との交流計画実施を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ同士や管理者とは悩みや不満を話し合う雰囲気はできているが、運営者とは話し合う機会が少ない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) スタッフは常に向上心を持ち良い介護、一人ひとりに応じた介護を模索している。勤務体制もスタッフの希望を取り入れできるだけ希望に応じるように努めている。運営者の理解を得るよう努力したい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居の相談がありご本人との面談、施設の見学とゆうプロセスの中でできるだけご家族、利用者が持つ不安や問題を理解し、安心して入居していただけるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居の相談がありご本人との面談、施設の見学とゆうプロセスの中でできるだけご家族、利用者が持つ不安や問題を理解し、安心して入居していただけるようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 特に緊急性があるケースは他の事業所や介護サービスを紹介したり担当のケアマネージャーと連絡をとり対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 開設当初はお試し入居や日帰りでの体験入居を実施していたが最近ではその段階を踏まず即入居される方がほとんどである。ご家族、ご本人の希望があれば体制はある。 (外部評価) 入居前にまず見学の打診をし、来訪があればゲームや食事をする中でホームに馴染んでもらうとともに歩行やトイレの状態を把握する。利用者、家族に納得してもらい安定した状態で入居に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護者は生活のパートナーであるという考え方のもと、さりげない介護に努めている。 (外部評価) 人生の先輩として経験豊富な利用者から道徳・生き方など教えてもらう場面が多い。気分転換で外に出て日光浴や草引きをすることもある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居されている方それぞれいろんな背景、問題をかかえている。それを理解し受容し援助していくことが私たちの仕事です。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時には近況をお話したり、相談したりするよう努めている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居当初は、自宅へ帰ったり、なじみの美容院にお連れしたりしていたが最近は少なくなっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食卓での座席の工夫や、気の合わない入居者のあいだにスタッフがはいつたりしてトラブルの防止に努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) いままでそのような取り組みはできていない。		関係を断ち切らない取り組みを考えていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の思いや希望を把握するように努めているが、なかなか現実に結びつかないことにジレンマを感じる。 <hr/> (外部評価) 入居間もない時は家族から情報を得ることが多かったが、年月を重ねてくると、日々一緒に生活する中で行動や表情から汲み取り把握することができ、職員間で情報を共有している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には生活歴などの聞き取りにつとめ、できるだけその方のこれまでの暮らし方を把握できるようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一度の行動、言動で判断するのではなく、周辺状況や、スタッフの対応など総合的に判断し、対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスなどで出た課題を解決できるよう介護計画を作成しているが、もう少しご家族の方や利用者の声を聞く必要があると思う。		
			(外部評価) 介護計画書は利用者や家族の希望が記入できるような様式になっている。利用者一人ひとりにあったケアができるよう家族の協力も得ながら介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に介護計画は見直しているが、ご本人、ご家族との話し合いの時間が取れてないように思う。		
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで見直しの検討を行っている。利用者の状態変化や状況・家族の要望に応じて随時見直しを行なっている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録や申し送りノートへの記録は、完璧だと自負している。それをケアに活かしていきたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 今後、ショートステイやデイサービスなど当ホームの特性を活かした活動を展開したいと考えている。 (外部評価) ホームの多機能性については運営者の意向が反映される。	※	盛り付けの美しい、味付けの良い食事を提供できるという利点を活かしてデイサービス事業へ拡大展開していくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域との協働は当ホームが抱える大きな課題である。		いろいろな問題があり地域との協働には、困難な点があるが、できることからは始めている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居前の担当の方とも情報を共有し、ケアに活かしている入居者もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進協議会に、地域包括支援センターの職員が参加してくれているが、具体的な協働システムの構築はできていない。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご家族、ご本人の希望に応じて、かかりつけの医師への受診を支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりに適した内容の定期健診は年6回行い、家族に報告し結果を共有している。受診については家族の希望を第一に優先し対応している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 入居前にかかっていた認知症専門医に受診することがあるが、日常的に相談できる体制ではない。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体病院の外来看護師に、相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者が入院した時、洗濯ものを取りに行くなど毎日スタッフが病室を訪室するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族や医師と相談し対応している。 (外部評価) 看取りに関する指針を定めており、終末期の看取りの経験があるが、母体が医療機関なので家族は安心して任せている。職員同士チームを組んで最大のケアができる体制になっている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現在は協力医療機関に頼っている状態である。ターミナルケアの考え方などチーム内で話し合い理解を深める必要があると思う。		勉強会を開催する。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他施設に移る場合は、諸情報を先方に届けるとともに、事前面接の時などに状態を詳しく説明する。またその後も面会に行くなど対応している。		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いには最新の注意を払っている。 (外部評価) 職員はプライバシー保護約束の誓約書を就業時に交わしている。利用者の尊厳や誇りを守ることを基本に、言葉かけには細心の注意を払っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 認知症の症状に応じ、わかりやすく話しするようにつとめている。その日に着る洋服などできるだけ自己決定できるようはたらきかけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) そうしたい、と思いつながらも業務に追われ一人ひとりのペースに合わさきれてない場面がある。 (外部評価) 会話が得意な方やぬり絵や折り紙に自信がある方など、利用者それぞれに満足できることや役割が発揮できるような支援に努めている。		初心にかえり、ケアのあり方を考える。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価人) 本人、家族と相談の上、希望に応じている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 全ての調理をまかせることはできないが、下処理など簡単なことは、入居者とするよう努めている。 (外部評価) 利用者が一堂に集うリビングは、キッチンでの調理過程が一目で分かり五感を刺激してくれる。敷地内の菜園の夏野菜を使った献立が登場することを利用者は心待ちにしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在のところそうゆう嗜好の方がいないが、そのような方が入居された場合は、対応する準備がある。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の支援には定時、随時のトイレ誘導を行うことにより、オムツ使用者が減ったことがある。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は週何回と決めず毎日入れる体制をとっている。 (外部評価) 入浴時間は午後に設定しているが、希望があればいつでも対応可能である。入浴を拒む利用者に対しては、職員の優しい声かけなどの適切な対応でスムーズな入浴が行なわれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間は毎日のその方のサイクルに応じ、対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのできること、家事の中でできることを微妙な感覚でしていただいている。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、洗濯物を畳む、草引き、好きなCDを聞くなど、昔とった杵柄を活かすことで自分らしい姿を蘇らせている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭のトラブルや、持っていないお金がなくなったなど金銭にこだわる方の対応に苦慮しているが、金銭感覚のある方はできるだけご自分で管理して頂いている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) できるだけ外へ連れ出すようところがけているが、日によっては希望があっても外出が不可能な時もある。 (外部評価) 外出はその人らしく暮らし続けるために重要であり、本人にとって大切な人や地域との関係の継続にもつながると考えている。近くまで散歩したり、いちご狩り・お寺参り・桜や菖蒲を見に行くことは季節を肌で感じることでストレスの発散にもなる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) たまに、お寺まいりや、お墓参り、買い物、など個別の希望に応じて外出をするが、遠出はできない。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) できる方は自由に電話したり、家族との会話ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 特にこれといった工夫はしていないが面会者は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員が周知しており身体拘束は一切、してはならないという気持ちでケアをしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は常に開錠しているが運営者の指示で、チャイムをつけている。 (外部評価) より安全性を確保するためにチャイムをつけているが、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者は全体的に落ち着いて生活している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中、夜間通じて入居者の把握につとめている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者の状態に応じ、洗剤や薬品などの保管に気を配っている。包丁も夜間は、別の場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 危険防止については考えられる場面を想定し、予防に努めている。転倒など事故が起きた時は、報告書を作成し、カンファレンスで話し合うようにしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 母体病院から指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害に対してはマニュアルを作り周知するようにしているが、訓練などが不十分であり緊急時の対応に関しては皆不安におもっている。 ----- (外部評価) 消防計画は作成しているが、早急に災害時における訓練の計画を実行に移すことが必要であると考えている。	※	地域の協力体制については自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 説明はしている。対応策も相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 母体病院の指示もあり、毎日血圧、体温の測定、月に一度の体重測定など健康管理に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬担当のスタッフを決め、管理している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫などできることは対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは毎日実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体病院の栄養士とも相談しながら、また、スタッフのなかにも調理師など資格を持った人もおり、協働しながら食事づくりにつとめている。 ----- (外部評価) 利用者と一緒に献立をたてる中で一人ひとりの嗜好を把握し、季節感も盛り込んでいる。栄養面についても専門的な観点からチェックしてもらっている。水分摂取不足にならないよう各居室にはお茶が用意されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インターネットなどを利用し情報の収集し、スタッフに発信している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食中毒に関しては、細心の注意を払い、食には気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日々気を配っているが、充分ではない。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる範囲で行っている。 (外部評価) 観葉植物の緑が爽やかさを感じさせてくれる。季節の花が活けられ、部屋の雰囲気が和やかになっている。リビングのソファでゆっくり寛ぐことができる。換気もよく、適度な明るさは心地良く生活できるよう配慮されている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファをおいたりリビングでの過ごし方を常に考えている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族が、考えてくださり、住みやすい居室になるように働きかけている。 (外部評価) 各居室に押入れがあり、十分収納できる。円形のテーブルと一人掛けりのソファも用意されている。テーブルの上には職員の優しい心づかいで生花が飾られている。職員は家族と協力し、利用者が安心して過ごせる配慮が行き届いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) オゾン設備を設置していたが、経営上の都合から廃止になり、機材に頼らない換気、臭いを工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりなど身体機能に応じた設備は整えている。ベットはその方に応じて高さや手すりをオプションしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) その時々、臨機応変に対応している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 季節に即した取り組みをしており、入居者みんなが、なにがしら、取り組める内容を考えている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で、利用者の小さな思いや、願いを見つけ出すように努めている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ③ たまにある 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 4 ほとんどない	毎日おやつ時間は職員も利用者に寄り添いゆったりと過ごそうと決めているが、日によっては、出来ない時もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者のペースで暮らせるよう職員は強制することなく、支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての利用者の希望どおりには外出できていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設の病院で夜間も診察ができ、利用者もご家族の方も安心されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	マニュアルどおりのケアでなく、その時の状態に応じた支援を心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	全てのご家族の把握までは至っていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 4 ほとんどない	地域との交流は今後の課題である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己) ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	今まであまり取り組めていないので、推進会議を通して、事業所を理解いただけるよう、今後も努力したい。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己) ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	活き活きと働けるよう努力しているが、ハードな仕事のため、疲れがなかなか取れない職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己) ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての利用者が、満足してはいないと思う。また満足していると思うとケアの向上もないと思うので。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己) ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

あたり前の生活感覚を大切に、ゆったりと自由な暮らし、穏やかでやすらげる暮らし、小さな思いや意思が大切にされる暮らし、などテレサの目指す暮らしが実現できるよう、努力しています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームテレサ

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏名

千葉多佳恵

評価完了日

19 年 6 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスにグループホームが位置づけられた意味を話し合い、地域との関係が強化できるようテレサの目指す暮らしを考えた。 <hr/> (外部評価) テレサの目指す暮らしを『笑』一字で体現し、地域とのかかわりを大切に、常日頃から多様な機会を捉えて取り組んでいけるよう全職員が努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフは、いつも理念を意識してケアにあたっている。カンファレンスなどでも時々確認している。 <hr/> (外部評価) 利用者が安心して生活できるように、カンファレンスやケアプラン作成時には理念が反映できるよう確認し、具体的なケアに活かしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 開設時に説明会、見学会などを実施したが、継続的な取り組みには至っていない。		前年度よりホーム便りを発行しているが、それを充実させていくことと、家族の会を立ち上げたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などに出かけたときは、近隣の方と挨拶をしたり、近くの畑の方から野菜を頂いたりと以前より関係作りは出来てきたが、まだ充分とはいえない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 今年度より、地域の活動には、積極的に参加するように努めている。 <hr/> (外部評価) 自治会に加入している。近隣の方から花や野菜をもらうこともある。散歩時のあいさつや声かけで利用者は元気をもらっている。いただいた稲穂や藁を飾りに使ったり、一緒に編んだりしている。		一斉清掃や、消毒、自治会の総会に参加した。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 民生委員の見学などの受け入れや、単発的な見学者、認知症に対する相談は、受け付けているが、ホームの機能を還元していく取り組みには至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価について勉強会を実施し、意義や目的などを確認しているが、日々の忙しさのため、外部評価の結果を十分に分析できず、活かしかけていないように思う。 <hr/> (外部評価) 改善計画シートを作成し、理念の具体化やホーム便りの発行が実現したことは評価できる。自己評価は管理者・職員間で話し合い、取り組んでいる。	※	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するための学習会などの取り組みを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議により、地域とのかかわりの足がかりはできたが、まだサービスの向上につながるような話し合いはできていない。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議で自己評価の内容説明、外部評価の結果公表、理念や行事の報告を行ない、参加者から助言や意見をもらっている。	※	地域に開かれたサービスとして質の確保を図るため、地域との交流促進のための話し合いを2か月に1回程度は行うことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 具体的な取り組みはできていない。市町村との連携は今後の課題である。 <hr/> (外部評価) 利用者の課題解決のために、実態を市担当者に良く知ってもらい共有できるよう働きかけることもある。地域密着型サービスとして連携強化に積極的に取り組んでいくことが今後の課題と考えている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については、書籍や講演会などに参加し、理解を深めるよう努めているが、対象となる方への働きかけはまだ不十分。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフはカンファレンスや日常の会話のなかで、虐待は絶対にしてはならないと認識しており、介護にあたっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居申し込み時と入居の時に説明をしている。不明なところは、いつでも対応できるようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の希望や不満を聞くよう努め、できるだけそれを反映させるよう努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 個々のケースに応じ、あるときは担当スタッフが、必要なときは、管理者が報告相談を行っている。 (外部評価) プライバシーの守られたホーム便りには日頃の生活ぶりや行事報告、家族へのお願い等を掲載し、定期的に家族へ送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時に苦情等何でも話してもらえるように説明している。ご家族のかたからの苦情は申し送りノートに記載しスタッフ全員が周知するように努めている。 (外部評価) 月1回利用料の支払いで訪問した時には、家族の立場に立って意見を聞くよう留意している。利用者の体調や人間関係など家族が安心できるよう全職員で対応し共有している。		家族会設立を考えている
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のコミュニケーションとカンファレンスで運営や体制に対する意見を聞いている。みんなが良いと思う方向に向かってでいけるようにと考えている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応をするためには、人数が足りず今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者の理解を得られるように働きかけたい。 (外部評価) 利用者、家族との信頼関係を築くためにも顔なじみの職員が対応することが重要であると管理者は考えており、やむを得ない離職を補うための職員確保や利用者への配慮を含めた対応に力を注いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会にはできるだけ参加できるようにしている。またカンファレンスで研修会の報告を行い得た情報を共有できるようにしている。 (外部評価) 職員は研修意欲が高くより専門的に学習したいと願っているが、限られた職員体制の中で実務に支障を来さない方法で研修機会を確保するための工夫が求められている。	※	職員の質の確保・向上に向けた育成のため具体的な研修方針を計画し実施することを期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 県のグループホーム連絡協議会に加入しているが、相互研修などの取り組みには至っていない。 (外部評価) 東予のグループホーム協議会の勉強会に参加し、質の向上を目指している。職員は他のホームを見学したり、交流する機会を希望している。	※	日々のサービスや職員育成に役立つよう、相互の研修や事例検討会等の機会を設けることが求められる。同業者との交流計画実施を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ同士や管理者とは悩みや不満を話し合う雰囲気はできているが、運営者とは話し合う機会が少ない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) スタッフは常に向上心を持ち良い介護、一人ひとりに応じた介護を模索している。勤務体制もスタッフの希望を取り入れできるだけ希望に応じるように努めている。運営者の理解を得るよう努力したい。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居の相談がありご本人との面談、施設の見学とゆうプロセスの中でできるだけご家族、利用者が持つ不安や問題を理解し、安心して入居していただけるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居の相談がありご本人との面談、施設の見学とゆうプロセスの中でできるだけご家族、利用者が持つ不安や問題を理解し、安心して入居していただけるようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 特に緊急性があるケースは他の事業所や介護サービスを紹介したり担当のケアマネージャーと連絡をとり対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 開設当初はお試し入居や日帰りでの体験入居を実施していたが最近ではその段階を踏まず即入居される方がほとんどである。ご家族、ご本人の希望があれば体制はあ (外部評価) 入居前にまず見学の打診をし、来訪があればゲームや食事をする中でホームに馴染んでもらうとともに歩行やトイレの状態を把握する。利用者、家族に納得してもらい安定した状態で入居に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護者は生活のパートナーであるという考え方のもと、さりげない介護に努めている。 (外部評価) 人生の先輩として経験豊富な利用者から道徳・生き方など教えてもらう場面が多い。気分転換で外に出て日光浴や草引きをすることもある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居されている方それぞれいろんな背景、問題をかかえている。それを理解し受容し援助していくことが私たちの仕事です。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時には近況をお話したり、相談したりするよう努めている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居当初は、自宅へ帰ったり、なじみの美容院にお連れしたりしていたが最近は少なくなっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食卓での座席の工夫や、気の合わない入居者のあいだにスタッフがはいつたりしてトラブルの防止に努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) いままでそのような取り組みはできていない。		関係を断ち切らない取り組みを考えていく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の思いや希望を把握するように努めているが、なかなか現実に結びつかないことにジレンマを感じる。		
			(外部評価) 入居間もない時は家族から情報を得ることが多かったが、年月を重ねてくると、日々一緒に生活する中で行動や表情から汲み取り把握することができ、職員間で情報を共有している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には生活歴などの聞き取りにつとめ、できるだけその方のこれまでの暮らし方を把握できるようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一度の行動、言動で判断するのではなく、周辺状況や、スタッフの対応など総合的に判断し、対応しています。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスなどで出た課題を解決できるよ う介護計画を作成しているが、もう少しご家族の方 や利用者の声を聞く必要があると思う。 (外部評価) 介護計画書は利用者や家族の希望が記入できるよ うな様式になっている。利用者一人ひとりにあつ たケアができるよう家族の協力も得ながら介護計 画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している	(自己評価) 定期的に介護計画は見直しているが、ご本人、ご 家族との話し合いの時間が取れてないように思 う。 (外部評価) 月1回のカンファレンスで見直しの検討を行って いる。利用者の状態変化や状況・家族の要望に応 じて随時見直しを行なっている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	(自己評価) 介護記録や申し送りノートへの記録は、完璧だと 自負している。それをケアに活かしていけるよ うにしたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応 じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている	(自己評価) 今後、ショートステイやデイサービスなど当ホー ムの特性を活かした活動を展開したいと考えてい る。 (外部評価) ホームの多機能性については運営者の意向が反映 される。	※	盛り付けの美しい、味付けの良い食事を提供でき るという利点を活かしてデイサービス事業へ拡大 展開していくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域との協働は当ホームが抱える大きな課題である。		いろいろな問題があり地域との協働には、困難な点があるが、できることからは始めている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居前の担当の方とも情報を共有し、ケアに活かしている入居者もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進協議会に、地域包括支援センターの職員が参加してくれているが、具体的な協働システムの構築はできていない。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご家族、ご本人の希望に応じて、かかりつけの医師への受診を支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりに適した内容の定期健診は年6回行い、家族に報告し結果を共有している。受診については家族の希望を第一に優先し対応している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 入居前にかかっていた認知症専門医に受診することがあるが、日常的に相談できる体制ではない。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体病院の外来看護師に、相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者が入院した時、洗濯ものを取りに行くなど毎日スタッフが病室を訪室するよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族や医師と相談し対応している。 (外部評価) 看取りに関する指針を定めており、終末期の看取りの経験があるが、母体が医療機関なので家族は安心して任せられている。職員同士チームを組んで最大のケアができる体制になっている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現在は協力医療機関に頼っている状態である。ターミナルケアの考え方などチーム内で話し合い理解を深める必要があると思う。		勉強会を開催する。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他施設に移る場合は、諸情報を先方に届けるとともに、事前面接の時などに状態を詳しく説明する。またその後も面会に行くなど対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。 (外部評価) 職員はプライバシー保護約束の誓約書を就業時に交わしている。利用者の尊厳や誇りを守ることを基本に、言葉かけには細心の注意を払っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 認知症の症状に応じ、わかりやすく話しするようにつとめている。その日に着る洋服などできるだけ自己決定できるようはたらきかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) そうしたい、と思いつつも業務に追われ一人ひとりのペースに合わさきれてない場面がある。 (外部評価) 会話が得意な方やぬり絵や折り紙に自信がある方など、利用者それぞれに満足できることや役割が發揮できるような支援に努めている。		初心にかえり、ケアのあり方を考える。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価人) 本人、家族と相談の上、希望に応じている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 全ての調理をまかせることはできないが、下処理など簡単なことは、入居者とするよう努めている。 (外部評価) 利用者が一堂に集うリビングは、キッチンでの調理過程が一目で分かり五感を刺激してくれる。敷地内の菜園の夏野菜を使った献立が登場することを利用者は心待ちにしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在のところそうゆう嗜好の方がいないが、そのような方が入居された場合は、対応する準備がある。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の支援には定時、随時のトイレ誘導を行うことにより、オムツ使用者が減ったことがある。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は週何回と決めず毎日入れる体制をとっている。 (外部評価) 入浴時間は午後を設定しているが、希望があればいつでも対応可能である。入浴を拒む利用者に対しては、職員の優しい声かけなどの適切な対応でスムーズな入浴が行なわれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間は毎日のその方のサイクルに応じ、対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのできること、家事の中でできることを微妙な感覚でしていただいている。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、洗濯物を畳む、草引き、好きなCDを聞くなど、昔とった杵柄を活かすことで自分らしい姿を蘇らせている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭のトラブルや、持っていないお金がなくなったなど金銭にこだわる方の対応に苦慮しているが、金銭感覚のある方はできるだけ自分で管理して頂いている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) できるだけ外へ連れ出すようところがけているが、日によっては希望があっても外出が不可能な時もある。 (外部評価) 外出はその人らしく暮らし続けるために重要であり、本人にとって大切な人や地域との関係の継続にもつながると考えている。近くまで散歩したり、いちご狩り・お寺参り・桜や菖蒲を見に行くことは季節を肌で感じることでストレスの発散にもなる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) たまに、お寺まいりや、お墓参り、買い物、など個別の希望に応じて外出をするが、遠出はできない。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) できる方は自由に電話したり、家族との会話ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 特にこれといった工夫はしていないが面会者は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員が周知しており身体拘束は一切、してはならないという気持ちでケアをしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は常に開錠しているが運営者の指示で、チャイムをつけている。 (外部評価) より安全性を確保するためにチャイムをつけているが、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者は全体的に落ち着いて生活している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中、夜間通じて入居者の把握につとめている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者の状態に応じ、洗剤や薬品などの保管に気を配っている。包丁も夜間は、別の場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 危険防止については考えられる場面を想定し、予防に努めている。転倒など事故が起こってしまった時は、報告書を作成し、カンファレンスで話し合うようにしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 母体病院から指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害に対してはマニュアルを作り周知するようにしているが、訓練などが不十分であり緊急時の対応に関しては皆不安におもっている。 ----- (外部評価) 消防計画は作成しているが、早急に災害時における訓練の計画を実行に移すことが必要であると考えている。	※	地域の協力体制については自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 説明はしている。対応策も相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 母体病院の指示もあり、毎日血圧、体温の測定、月に一度の体重測定など健康管理に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬担当のスタッフを決め、管理している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫などできることは対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは毎日実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体病院の栄養士とも相談しながら、また、スタッフのなかにも調理師など資格を持った人もおり、協働しながら食事づくりにつとめている。 ----- (外部評価) 利用者と一緒に献立をたてる中で一人ひとりの嗜好を把握し、季節感も盛り込んでいる。栄養面についても専門的な観点からチェックしてもらっている。水分摂取不足にならないよう各居室にはお茶が用意されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インターネットなどを利用し情報の収集し、スタッフに発信している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食中毒に関しては、細心の注意を払い、食には気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日々気を配っているが、充分ではない。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる範囲で行っている。 (外部評価) 観葉植物の緑が爽やかさを感じさせてくれる。季節の花が活けられ、部屋の雰囲気が和やかになっている。リビングのソファでゆっくり寛ぐことができる。換気もよく、適度な明るさは心地良く生活できるよう配慮されている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファをおいたりリビングでの過ごし方を常に考えている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族が、考えてくださり、住みやすい居室になるように働きかけている。 (外部評価) 各居室に押し入れがあり、十分収納できる。円形のテーブルと一人掛けりのソファも用意されている。テーブルの上には職員の優しい心づかいで生花が飾られている。職員は家族と協力し、利用者が安心して過ごせる配慮が行き届いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) オゾン設備を設置していたが、経営上の都合から廃止になり、機材に頼らない換気、臭いを工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりなど身体機能に応じた設備は整えている。ベットはその方に応じて高さや手すりをオプションしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) その時々、臨機応変に対応している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 季節に即した取組みをしており、入居者みんなが、なにがしら、取り組める内容を考えている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ①ほぼ全ての利用者の 評価) 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思いや願いを把握するように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ②数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	一日のうち時間を決めてゆったりと過ごすよう努めているが、日々の業務に追われてしまうときもある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ちょっとした声かけや、スキンシップで生き生きとした表情をみせてくれる時がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全員の希望通りの外出はできていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	同法人の病院で24時間いつでも診察してもらえ、定期的に健康診断もしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ②家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の希望の把握に努めているが、全員のご家族には至っていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ①ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域との交流が課題となっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を活用し、いままで取り組めていなかった地域とのつながりを深めていきたい。
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意欲のあるスタッフが多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての利用者の方が、満足しているとは、思わない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者の笑顔を引き出し、「テレサの目指す暮らし」が実現できるよう努力しています。